

山口県議会 6月定例会  
笠本俊也 一般質問要約

県議会 6/29 の録画中継は  
下記からご覧になれます  
<http://bit.ly/U394jy>

俊也の目  
二井知事から、県北地域の道路網の整備に積極的な答弁をいたしました。私は、引き続き、この最重要課題の成り行きを注視し、言うべきことは言うスタンスで臨んでまいります。

質問①  
道路行政について

道路は、人、物、情報、文化などの交流の主流に不可欠なインフラであり、地域の豊かな一次資源や、様々な観光資源を活かした社会的発展を推進するために重要な社会資本である。  
とりわけ北部九州の経済圏は、各種産業のメインセンターであり、双方を連絡する基幹道路が不可欠な存在であるが現状は極めて脆弱な状況にある。

長門・下関間が高規格道路で直結すれば、こうした課題が解決できることからその早期整備は要緊である。そのためには、俵山・下関間の早期事業化が必要であり、また、長門・下関間全線開通による中国道などを結ぶ高速道路ネット

井関成県知事  
二井関成県知事  
ワークの構築を住民は強く希望している。今後の山陰道整備では、ルート選定やインターチェンジ設置などで、周辺道路との連携を図ることも重要と考えるが、山陰道を中心とする県北西部地域の道路網の整備について、今後、どのように進められるか、伺う。

私は特に、山陰道の建設促進について、は、知事就任以来今日まで、自ら先頭を立つて國に要望し、高速道路ネットワークの構築を積極的に取り組んできた。また今年度から、長門・俵山道路についても、三隅道路が全線開通の構成、昨年、萩・三隅道路が全線開通しました。

け、有効活用に努めてきた。今後とも、地域の「一々」や実情に応じ、地域再生計画に基づく既存施設の利活用を行い、「高齢者支援施設」の確保に努める。

問題④

質  
指道は二つで、  
6次産業化によって育成される新産業  
は、1次産業を再活性化させるばかりか  
1次産業に当たつても有効な産業にな  
る手立てをもつてゐるが、1次産業  
の就業率が高い地域においては、地元  
高校生の就職支援の面からも、6次産業  
化を1次産業再生のキーワードとして、

議

A portrait of a man with short dark hair, wearing a dark suit jacket, a white shirt, and a patterned pink and gold tie. He is looking slightly to his left.

10

**質問②**  
**高齢者に対する  
生活支援の充実強化について**

本県では超高齢社会が現実のものとなリつがあり、高齢独居世帯等の急増は深刻な社会問題である。介護老人福祉施設は全く不足し、地域包括ケアシステムのもと居宅介護が重視されてくるが、僕ら

じへの支援で、地域社会におけるつながりを保つこと、さらには、地域社会の見守り活動など本県独自の取組は評価されるが、見守り活動を支える次の担い手の確保などを含めた生活支援の充実強化について、今から対策を講じるべきではないか。地域に暮らす高齢者の希望に合った生活支援についてこれまでどのように取り組んできたのかまた今後、地域の抱える課題や実情についてわざり、どのように対応を進めていくのかなどと中止申請区域では別途したる旨を察する。

答弁 渡邊健康福祉部長

ついて、県ではこれまで、市町との適切な役割分担の下、社協を中心とした「福祉の輪づくり運動」等を通じ、支え合いマップ作成や交流拠点整備、移動手段確

保の取組等、積極的に支援をしてきた。一方、中山間地域を中心に高齢者の生活を支えるサービスの確保や、見守り・生活合い的活動の強化等の課題に対する取り組みについて、こうした課題に対する市町村等の取組を支援し、福祉車両の購入等を支援するとともに、今年度新たに、県社団

質問

高齢者の生活支援体制の整備といつ  
ソフト対策と合わせて、デイサービス、  
ンターや特別養護老人ホームなど、高  
者の日々の生活を支える場、ハーネスを  
保することも重要。また、施設の確保確  
保については、未利用となつた行政の有す

の結果に基づき、小型魚の漁獲制限を設施し、順次、漁場整備や保護区域の設定を行う。岩牡蠣やヒジキの新規養殖等については、機器整備の支援や養殖技術の指導を通じ、引き続き漁業者グループとの共同経営化・法人化を進め、経営安定化を図る。

## 質問⑥ 県民活動の更なる活性化について

## 質問④ 県民意識の更なる活性化について

きらら博、国民文化祭、固体と、二  
知事は、県民争うての盛り上がりを願  
しながら、大成功に導かれた。知事の  
いが、県民活動を活性化させ、地域力  
県民力を高める原動力につながつてい  
まさに全国に例のない山口県らしい道  
り、共感を覚える。新設の山口きらめ  
財団には、県民活動を下支えできる  
やバワードなど新たな血液を注入し、県  
の負託に応えていただきたいと期待し  
いる。県は、山口きらめき財團の今後  
展開も含め、県民活動の更なる活性化  
向け、どのような展望をもって取り組  
のか、伺う。

**答弁**  
**門田環境生活部長**

A portrait of a man with short dark hair, wearing a dark suit jacket, a white shirt, and a patterned tie. He is looking towards the left of the frame. A small pin or emblem is visible on his left lapel.

財産の活用も選択肢の一つとして検討してはいかがか。高齢者が生き生きと暮らせ、そのための様々な「高齢者支援施設」の確保について、県はどうに考えるか。また、施設の確保に当たっては、関係施設を活用し、分校となつた学校施設などは政の有する財産の有効活用を進めてはいかがかと考えるが、県の考え方伺う。

答  
渡邊健康福祉部長  
高齢化の進行する中、県では、地域の  
「一ίスも踏まえながら、在宅サービス」との  
施設サービスとのバランスにも配慮し、  
介護保険の運営主体となる市町と協議、  
調整用の年間のサービスセンターとし、  
見込者数や、特養等の必要人員を算定して、  
などと定めた。県としては、この数値に基づき、  
「高齢者支援施設」の整備を今後実施していく。  
また、これまで地域で利用してい  
た施設を「高齢者支援施設」として、  
利用することは、地域の高齢者を受けられ  
ては住み慣れた地域でサービスを受けられ  
れ、かつ、地域の社会資源の有効活用と  
なることから、その取組を進めが必要が  
あると考えている。  
県としては、これまで、廃校となつた  
学校は、市町等へ取得希望の有無を  
照会するなど、その活用を働きかけ

